

花しょうぶ通り商店街振興組合／滋賀県彦根市

1. 取り組みの概要について

花しょうぶ通り商店街では、身の丈にあった方法で商店街活性化に向けた取り組みをしようと、大学教授や学生と連携したアートフェスタ勝負市等の様々な取り組みが 10 年にもわたり進められている。商店街活性化を持続的にするために、店主だけでなく、地域の内外の人も加わった新しい組織「LLP（有限責任事業組合）ひこね街の駅」を立ち上げ、商店街内の江戸時代に寺子屋として使われていた空き店舗を学びの場として利用するために、ひこね街の駅「寺子屋力石」として復活させた。また、商店街内で、歴史キャラクターを創ろうという意見から「しまさこにゃん」や「いしだみつにゃん」といったキャラクターを誕生させ（同時期に国宝・彦根城築城 400 年祭）のキャラクター、ひこにゃんも誕生）、銭湯跡を改装した第 2 街の駅「戦国丸」での戦国グッズの販売や、戦国商店街宣言をするなど、「戦国」をテーマとした商店街づくりを進めている。



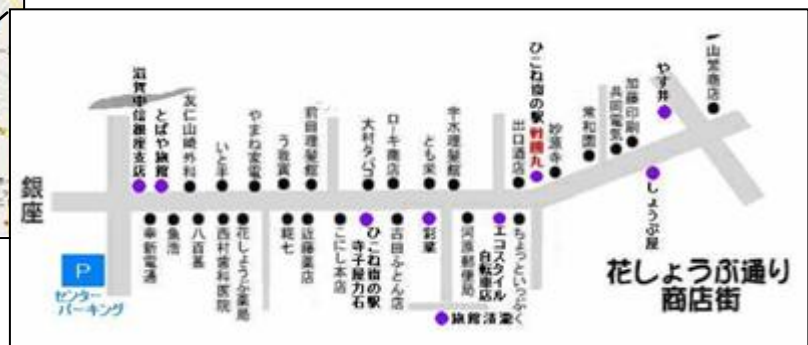
【ひこね街の駅「寺子屋力石」】



【第 2 街の駅「戦国丸」】

2. 商店街概要

商店街名	花しょうぶ通り商店街振興組合
所在地	滋賀県彦根市河原、安清町
会員数	31 店舗
URL	http://www.packet.ne.jp/hanasyoubu-st/index.htm





【花しょうぶ通り商店街】

3. 取り組みに至る経緯・背景

平成8年に、商店街の若い店主10人ぐらいが集まり、まちの活性化について考える機運が高まった。平成9年に滋賀県立大学と商店街でまちづくりの検討を行うワークショップで、学生発案による「ふるあたらしい街」のコンセプトを打ち出し、そのコンセプトの基づく取り組みの一つとして、平成11年から商店街のファサード整備事業により、各商店を町屋風にリニューアルするとともに、近年では「戦国」をテーマに戦国武将の幟旗を各店頭に掲げるなどの取り組みにつながっている。大学・学生との連携は、商店街活性化の“きっかけ”“初動”として活用されており、商業者自らが主体性を持った活動につながっており、LLP（有限責任事業組合）による街の駅は滋賀大学教授の提案により立ち上げられ、街の駅の運営の主体は商店街の店主が中心となって行われている。

近年の「戦国」をテーマにした取り組みの発端は、10年ほど前、まちのソフト事業の検討の中から出てきたものである。花しょうぶ通り商店街は、彦根市の中心市街地を形成する商店街の中でもはずれにあり、彦根城にきた人は立ち寄らない、彦根駅からも遠いという立地から、他の商店街と同様に彦根城を活用した取り組みでは太刀打ちできないことから、地域の歴史を見直し、佐和山、石田三成に目をつけたことから始まり、「いしだみつにゃん」「しまさこにゃん」というキャラクターの誕生、戦国を発信する第2街の駅「戦国丸」の開設、1000アイテムを超えるキャラクターグッズの製作・販売、また昨今の歴女ブームにより、戦国ファンのネットワーク化へと展開している。



【左：商店街で生まれたキャラクター】 【右：キャラクターグッズ（ひこね街の駅戦国丸 HP より）】

4. 取り組み内容

(1) 街の駅「寺子屋力石」の取り組み

平成9年から、200年前の寺子屋を空き店舗対策で駄菓子屋やギャラリー、レコードショップとして活用していたが、平成17年より、LLPひこね街の駅が現代版寺子屋「街の駅」として街のプラットフォームということで、様々な方の学びの場として開店し、多様な人たちが参加する勉強会や講座を定期的開催している。

平成18年からは滋賀大学・滋賀県立大学の街なか研究室として研究発表や活動の拠点として使われるようになっていく。そして、平成20年には、商店街版チャレンジショップとして20代の女性が「カフェルワン」を開業しており、様々な利用がなされている。

また、毎週土曜日開催の「それぞれの彦根物語」では、市民が講師になって、現代版寺子屋を実現している。その他にも段ボール甲冑教室や子供たちのお花教室や陶芸教室、おさらい塾があり、おさらい塾では市内の教師を目指す学生や商店街の店主が教師となっている。

(2) 第2街の駅「戦国丸」の取り組み

①戦国をテーマにするまでの経緯

花しょうぶ通り商店街は、彦根市の中心市街地を形成する商店街の中でもはずれにあり、彦根城や彦根駅から離れているという立地条件から、他の商店街と同様に彦根城を活用した取り組みでは太刀打ちできないと考えた。もう一度、地域の歴史を見直したところ、地域の歴史資源として、佐和山、石田三成に目をつけた（10年ほど前）。

当時は、佐和山といっても何もなくて、彦根の中では石田三成だとか、佐和山を語ることはなかなか難しいときでもあったが、その時も「二つの名城に囲まれた彦根の街なんだ。関が原の合戦を機に東西の文化が一気に交差した街なんだ」ということを訴え続けた。

平成19年には、彦根城開城400年祭にあわせて、段ボール甲冑教室を行っている店主らが中心となって「いしだみつにゃん」「しまさこにゃん」というキャラクターを誕生させた。

最近では、NHKの大河ドラマ『天地人』でも取り上げられ、非常に石田三成を再評価する機運が高まり、平成20年3月16日には、第2の拠点、ひこね街の駅「戦国丸」開城（オープン）に合わせ、“日本一の城下町で戦国の街をテーマとした『戦国商店街』”を宣言した。

②戦国丸を中心とするネットワークづくり

街の駅2号店となる「戦国丸」は、空き店舗となっていた銭湯を活用したものである。

「戦国丸」では、かつて男湯、女湯と記してあった扉が、東の陣、西の陣とし、関ヶ原の戦いをイメージ。脱衣場の仕切りを外した一間では、軍旗など戦国武将にちなむグッズを販売している。タイルを敷き詰めたままの風呂場には、厚紙でできた見事な甲冑を展示、定期的に手作りの甲冑教室を開いている。その他、「戦国丸」はオープンして2年程度であるが、インターネットの情報や、佐和山等を訪れた方々、歴史ファンの立ち寄りの場となっている。

また、「しまさこにゃん」「いしだみつにゃん」のファンクラブとして、『家臣団』をつくり、戦国丸を訪れた歴史好きの女性らに登録を呼びかけ、メーリングリストをつくっている。全国で500名以上の会員がおり、イベント等ではヘルパーとして協力をいただいている。

5. 取り組みによる成果

(1) 街の駅「寺子屋力石」の取り組み成果

寺子屋力石は、平成 17 年から約 5 年の取り組みとなっている。「人と情報が集まり散ずる、商店街の駅」というコンセプトで始まり、手づくり甲冑とかキャラクターグッズ・学び舎・談話室・陶芸・喫茶店を行った。その中で評価を経て、成長事業となった手づくり甲冑・キャラクターグッズは、本格事業化しようということで、街の駅 2 号店を開設しそこに移すかたちとなった。

学習・交流については、新しい事業を考えながら実験していき、子供たちのお花教室や陶芸教室、おさらい塾、市民が講師になった「それぞれの彦根物語」といった講座が定着し、老若男女、学生、市民等の様々な方々の学習・交流の場となっている。

(2) 第 2 街の駅「戦国丸」の取り組み成果

戦国グッズに関しては、キャラクターだけでなく、戦国時代の家紋や絵をアレンジしたコンテンツが豊富であり、1,000 アイテムを越える商品を製作・販売している。

戦国丸への来場者の大きく、「キャラクター関連で興味を持った方」「戦国関連のゲームソフトの影響から戦国関連で戦国丸を知った方」「純粋に歴史を研究されている方」に分かれる。

これらの方々のネットワーク化（ファンクラブ化）を図ったことにより、イベント情報を発信するとボランティアスタッフとして参加する方も多く出てきており、イベント運営時の人的負担の軽減につながっている。

「しまさこにゃん」「いしだみつにゃん」といった“ゆるキャラ”を持ったことにより、彦根以外の外のイベントにキャラクターの参加依頼があり、さらなる PR の場ができたこと、グッズの販売経路が広がった。

(3) ナイトバザールの取り組み成果

定期的な商店街販促活動であるナイトバザールは、平成 10 年よりスタートし、この秋には通算 100 回目の開催となった。地域にも定着しており、不足店舗のチャレンジショップは好評を得ている。

地域型商店街であることから、広報範囲も商店街の半径 500m の住民に絞り、毎回、手づくりでチラシを作成し、商店街の店主が手分けしてポスティングを行うことで、商店街と住民との親近感を得られるようになった。

6. 取り組みにおける課題

(1) 拠点での取り組みから商店街全体へ波及する取り組みへ

寺子屋力石や戦国丸の取り組みにより、学習・交流の場、戦国関連の取り組み・情報発信の拠点ができた。次の課題としては、戦国丸での戦国キャラクターグッズの取り組みを、商店街の商品開発につなげてゆき、商店街全体へ波及させることがあげられる。

現在、イベント時に飲食・菓子店の協力により、関連する商品を提供する取り組みを行っているが、今後は通年販売による安定的な事業収入を目指している。

(2) 体制改善の必要性

毎週火曜日に商店街の会合を開き、商店街活動、LLP の活動について運営調整、企画検討等を行っている（商店街のメンバー10人が中心となって企画・運営）。

うれしい悲鳴であるが、外からの企画（JR西日本、近江鉄道とのタイアップ企画、他都市へのキャラクターPR等）が入ってきたりして、近年、イベントでふりまわされている傾向があり、体制改善の必要がある。

7. 連携した団体、キーパーソンについて

(1) 地元の大学との連携

花しょうぶ通り商店街でのまちの活性化への取り組みは、若手店主は集まってまちの活性化を考え始めた当初から、地元の大学と連携し、様々な知恵、学生の発想や行動力が、かみ合って、学生と連携したアートフェスタ勝負市をはじめ、10数年にもわたり大学と連携した取り組みが継続できたことにある。

(2) LLP ひこね街の駅の設定による地域内外のネットワーク構築

店主だけでなく、地域の内外の人も加わった新しい組織、「LLP（有限責任事業組合）ひこね街の駅」を立ち上げたことにより、花しょうぶ通り商店街を舞台とした取り組みが継続、発展できたと言える。

8. その他

(1) 共通の気持ちを持つこと、自分らのまちを見直すことの大切さ

まちの活性化を進めるにあたり、「自分らが好きなものを大切にし、発信していこう！」というスタンスを持って、活動を進めている。

今日の戦国丸での取り組みの原点は、まず自分らの住んでいるまちの歴史をもう一度勉強するところから始まった。歴史に詳しい地元の方の話を聞いたり、文献を調べたりする中で、外から教わることも多々あり、そこで学んだことを、外に発信した姿が、現在の取り組みのかたちになったと言える。